

## 令和2年度総合教育会議議事録

- 開催日時 令和2年10月27日（火）午後3時00分～4時10分
- 開催場所 本庁舎2階会議室
- 出席者 藤原淳（市長）、鳩岡矩雄（教育長）、槻館行男（教育委員）、菅原ゆかり（教育委員）、佐々木千穂（教育委員）、荒谷直大（教育委員）
- 事務局職員 玉懸邦将（教育部長）、澤田善治（教育部副部長）、山火敏幸（学力向上推進監）、三上敬子（生涯学習課長）、山田善之（文化財課長）、畑本啓子（図書館長）、小野寺一夫（学校給食センター所長）、田中館淳一（総合政策部長）、工藤博幸（政策推進課長）、長畑宏範（教育企画課副主幹兼教育企画係長）、國分知子（教育企画課主任）

### 1 開 会

#### （玉懸教育部長）

本日の会議の進行を務めます教育部長の玉懸でございます。

ただいまから、令和2年度二戸市総合教育会議を開会いたします。

なお、本日の会議終了時刻は4時10分ごろを予定しております。

本日の会議は、市長部局からは、田中館総合政策部長と工藤政策推進課長が同席しております。また、教育委員会事務局からは、澤田副部長、教育企画課 山火学力向上推進監、三上生涯学習課長、山田文化財課長、畑本図書館長、小野寺学校給食センター所長が出席しています。また、教育企画課から長畑副主幹と國分主任が同席しております。

それでは、次第に沿いまして進めます。

はじめに、藤原市長がごあいさつを申し上げます。

### 2 あいさつ

#### （1）市長あいさつ

#### （藤原市長）

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。日頃より、二戸市の教育の発展のためにご尽力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、平成27年に法改正により、当会議が設立されました。教育部局と市長部局とがうまくやっていくということの趣旨だったと思いますが、これは本当に今うまくいっているのではないかと感じております。二戸市の予算、話題等を見ると、一番多いのが教育部局の話題で新聞見ても何を見ても、予算的にも一番多くなっております。例えば、昨年ですが、エアコンの設置、トイレの改修、除雪機の整備、今年に入りまして文化会館、シビックセンターの空調設備、GIGAスクール、また、長年の課題でありました支援学校も県の計画に載せていただくことができました。加えて、天台寺の360年ぶりの改修、漆文化の日本遺産登録、九戸城史跡整備など、教育長さんの強力な指導の下に着々と一つずつ前に進んでいると感じているところです。

一方で、コロナ禍によりまして、子どもたちが今までと違う生活を強いております。勉強、クラブ活動、修学旅行の変更で、今までで経験したことがないことが出てきております。加えて、高校再編では、まさかと思ったのですが、工業高校を建てていながら一戸高校との再編、あるいはそれに付随しての周りの対応を迫られているわけですが、この中で私どもは福岡工業高校、福岡高校を再度見直すことができたのかなと思っております。また、改めて福岡工業高校、福岡高校の存在意義、今後どのようにしたらよいのかを考えさせられました。

福岡工業高校においては、今ある優秀な方々が卒業されていく科目が維持できるものなのか、それを守っていかなければならないと思っております。また、福岡高校がまさか岩手県内で一番古い校舎ということを改めて感じまして、先般、私が学校に行ったときにトイレ等見させていただきましたが、自分が通っていた50年前のトイレと同じで、ただ周りが修理されているという状況でした。これらについては県に強く要望していきながら、教育長さんと一緒になりながら福岡高校の改築についてもお願いしてまいりたいと思っております。

本日は皆様の様々な各方面から忌憚のないご意見等を伺うことができたと感じておりますのでよろしくお願いいたします。

#### **(玉懸部長)**

続きまして、鳩岡教育長がごあいさつを申し上げます。

#### **(2) 教育長あいさつ**

##### **(鳩岡教育長)**

一言あいさつを申し上げます。

本日は二戸市総合教育会議に対座していただきまして誠にありがとうございました。また、日頃からは、教育行政の推進にあたりましては、市長より格別のお力添え、ご支援をいただいております。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

本日は、限られた時間でございますけれども、忌憚のないご意見を交わされるようお願いしたいと思っております。

今日はよろしくお願いいたします。

3 議 題
-------

##### **(玉懸教育部長)**

それでは、次第の「3 議題」に入ります。

ここからは、藤原市長に議長をお願いいたします。

##### **(藤原市長)**

それでは、議題に入りたいと思います。

はじめに、「(1) 二戸市教育大綱(案)」について、事務局説明をお願いします。

**(澤田副部長兼教育企画課長)**

教育企画課長の澤田です。

二戸市教育大綱（案）」について、説明いたします。

（中略）

教育振興基本計画の「基本目標や基本的な方針」を基に、次第1、2ページの二戸市教育大綱（案）として進めたいというものであります。

**(藤原市長)**

説明が終わりました。皆様からご意見があれば伺います。

<意見なし>

**(藤原市長)**

よろしいですか。

<「はい」の声あり>

**(藤原市長)**

異議がなければ、今年度中に策定されます「二戸市教育振興基本計画」の「基本目標や基本的な方針」を基に協議し、大綱とする方向で進めさせていただきます。

それでは、計画の策定作業を見ながら、次回の総合教育会議の場で正式に「大綱」と決定することといたします。

続いて、「(2) 今年度及び今後の主な教育事業等について」に入ります。

**(玉懸教育部長)**

それでは、私から各課の取り組みの説明に先立ちまして、今年度の主な事業概要と説明を申し上げます。

（中略）

具体的な部分については、各課から説明いたしますが、いずれ、他との交流がある事業等、見直しを余儀なくされたところでもあります。しかしながら、先ほど、市長の冒頭ごあいさつにもありましたが、コロナに関連する部分で、GIGAスクール関連、ICT関連環境整備等々は進んでおります。また、学校施設等をはじめとする公共施設の環境整備等も進んだものも本年度多くあったととらえております。

私からは以上であります。

**(藤原市長)**

それでは、1、2、3順次説明いただきまして、ご質問は、一括して受けたいと思います。

それでは、「(1) 学校教育の充実について」から説明をお願いします。

**(澤田副部長兼教育企画課長)**

学校教育の充実について説明いたします。

(中略)

以上で説明を終わります。

**(三上生涯学習課長)**

生涯学習課の三上です。

社会教育の充実について説明いたします。

(中略)

以上で説明を終わります。

**(山田文化財課長)**

文化財課の山田です。

文化財の保存と活用について説明いたします。

(中略)

以上で説明を終わります。

**(藤原市長)**

説明が終わりました。皆様からご意見、ご質問を賜りたいと思います。

**(槻館教育委員)**

5ページの社会教育の充実についてです。今後の取り組みについての(2)地域学校協働活動の推進ですが、コミュニティ・スクールとの関連で少し進めたいという説明でした。従来の活動そのものがどのぐらい変わるのかイメージがあれば説明いただきたいです。

**(三上生涯学習課長)**

当課で考えているのは、コミュニティ・スクールの委員の中にコーディネーターが在籍し、学校が取り組んでいる地域と協力した事業等について橋渡しをする推進員のような人(これまでの副校長の役割を担う)を各学校に配置し、学校と地域をつなげることができればいいと思っております。

現在は、家庭教育学級ということで、学校では地域の人材を活用した様々な学びの場を設けていると思うのですが、そういう部分の支援をできればいいと考えているものです。

**(槻館教育委員)**

なぜその質問をしたかという、1ページに学校教育の充実の囲みの中に、学校、家庭、地域が協働し「地域総ぐるみ」という文言が次年度から入ってくるわけです。これとのかかわりについて、私がイメージするものは、もう少し家庭への啓蒙や地域の地域力の向上

など、そういうことが確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育につながるということで作ったものと思うのですが、それと「2 社会教育の充実」の「地域学校協働活動の推進」とのかかわりがあるものかと思い質問をしました。

#### **(山火学力向上推進監)**

学校教育の充実のところでは地域総ぐるみという話がありました。この部分はコミュニティ・スクールに係わる部分ですが、教育振興運動とのかかわりで、今まで地域学校協働活動を行ってきたわけですが、その中でも学校内に係る部分については、今後はコミュニティ・スクールがかかわっていくもので、地域に係わる部分の地域協働活動については、教育振興運動で行うというすみわけになっております。学校に係わる部分は、地域の方々、家庭にも多く協力を求めて、学校の活動に力を貸していただくということを今後進めていくこととなります。

#### **(槻館教育委員)**

中々理解してもらえなのかもしれませんが、例えば、ここ数年で子供たちの環境が充実してきていると感じております。市長のご挨拶の中にも触れられていましたとおり充実されています。その中でソフト面では、子ども新聞、生まれた子、入学した子に図書を寄贈するということが家庭の教育力の向上に非常に寄与していると思っております。それが直接的に子供の成長に見える形ではないかもしれませんが、これがボディブローのように非常に効いてくるのではないかと思います。そのような家庭への支援、あるいは地域がもっと子供たちに影響を及ぼすような支援をイメージしての文言と思っております。というのも、いろいろな市町村の様子を聞くと、学校長、家庭、地域が一体となったコミュニティを作ることが、子どもの学力や豊かな心、健やかな体を育むことにつながっていると私は認識してきたので、そこまでいろいろなことを事業として出していく見通しを持っていると思っております。

#### **(藤原市長)**

目指すものは、地域のコミュニティや地域ぐるみということで、地域で子供を育てるというように言われておりますのでそこにつながっていくと思います。学校教育、社会教育、文化財とあるのですが、それを通した一つの地域で子供を育てる、地域で社会を助け合うというのが基本になるので槻館委員がおっしゃる通りだと思います。

教育長さん、何かありますか。

#### **(鳩岡教育長)**

教育振興運動を全国に先駆けて 50 年という意識が県も市町村も非常に強いのです。このコミュニティ・スクールの報道が出たときに岩手県はいらぬということでした。東京都、大阪府のように地域とかがかわりがない、地域と学校が一体となっていない県にこそ必要だということで、岩手県はやらなくてもよいという話ではあったのですが、だんだんと文科省から岩手県に圧力がかったのだと思いますが、ようやくやることとなったわけで

す。岩手の場合は下地ができていますので、これについてはうまくいくのではないかと考えております。ただ、これからは、教員はこのような科目を充実させて欲しいとか、部活動ではこのような指導者が欲しいなどの声が地域で上げやすくなりますので、そういう面では地域の皆様が参加しているという思いが強くなりますので、かなり一体となった運営ができるものと思います。

#### **(藤原市長)**

次の教育大綱の中では、これが目玉になってくると思いますので、その背景が分かったうえで打ち出していくということが必要だと思います。ただの絵に描いた餅に終わらないように、これの下には様々な事業が張り付いているということに気を付けながら市長部局としてもやっていきたいと思います。

#### **(菅原委員)**

コロナ禍において、学校教育でもかなり中止になったりしたことが起こっていると思います。一つの考え方としては、こういうことが起こったことで、ずっと継続しているものが良かったのか、もう少し改善するべきところはないかを考える良いチャンスではないかと思っております。そこで学校教育できぼう塾や海外派遣が中止になり、学芸大学との交流が中断しているわけですが、今現在みられるその影響についてお聞きします。

#### **(澤田副部長兼教育企画課長)**

学芸大学以外についてお答えいたします。これから影響が出てくるかもしれませんが、現在のところは特に把握しておりません。

#### **(山火学力向上推進監)**

学芸大学の連携事業にかかわりましても、学芸大学との連携で学ぶべきことは、最先端の教育理論や教育技術を学ぶということになるので、この先に影響がでるかもしれませんが、現在のところは特にはありません。逆に、このような研修がない代わりに、各学校の普段の授業を多く見て回り、助言することができましたので、普段の授業の授業力向上という部分では良い面も見られました。

#### **(鳩岡教育長)**

コロナによって、新しい日常という言葉がいろいろ言われていますが、実は全国的には、いままでの学校文化を見直すいい機会になったと思います。市内でも運動会や学習発表会の持ち方など、意外と良かったという声があります。それは何かというと、いままで小学校では、あまりにも人に見せるということを意識して、しっかりやらなければならない、立派にやらなければならないということを意識してきたために、子どもたちはその準備に時間を取られ、中学校に至っては総練習を行っているわけです。そんなものはいいのではないかという声もだんだん上がってきているようです。それが学校現場で上がってきているということはいいことだと思います。

これからある卒業式でも、教育委員会告辞を仰々しく行っていました、それもいらないだろうと思っております、学校とも相談しているところです。来賓でいうと、小学校は来賓に向って一斉に膝をそろえてお辞儀をするわけですが、あれももういないということで学校はやっているようです。

#### **(藤原市長)**

我々も、交付金が来て、おかげさまでこれまで修繕できなかったシビックセンターなどの修繕を行っていくという状況にあります。コロナではないですが、道路等についても、金田一小学校の入り口についても、60年、70年ぶりに広げ、福岡高校のところも真っすぐになりました。石切所小学校の通学路についても、区画整理の中できちんとした通学路を作っていきます。石切所公民館やこれからはなると思うのですが、学校の皆さんから前々から言われている体育館なども考えていかなければならないと思っております。予算的に続くか、続かないかの問題になりますが、それらについてはやっていかなければならないと思っております。

今まで宿題になっていた部分についても、どんどん現実味が出てきております。九戸城は情報発信をうまくすると、とんでもない宝と先生方から聞いているところです。漆、天台寺、九戸城などしっかりやっていきたいと思っております。

#### **(鳩岡教育長)**

佐々木委員、荒谷委員には運動会、学習発表会を見ていただいておりますので、生の感想をお願いします。

#### **(佐々木委員)**

私は、自分の仕事の関係で学校を回ることがありますが、学校行事が春から全部秋に移動しました。

小学校の運動会は、半日ずつ2日かけて行いましたが、こういう形があるのだなあと思いました。平日でしたが、保護者も制限がある中で見て応援できました。

ただ一つ、コミュニティ・スクールを昨年一生懸命やり始めたところでしたが、コロナの影響でつながりが消えたように感じます。学校行事を地域の皆さんに見せる機会がなくなり、なんとなくそこで距離ができたと思っております。地域、学校、家庭が一緒になり、コロナであっても、今後何があっても強い思いということも一緒に考えていかなければならないと思っております。

#### **(荒谷委員)**

春は運動会、先日は学習発表会を見させていただきました。先ほど佐々木委員がおっしゃいましたが、保護者の入場が制限され、地域の方も外から見ると敬遠されるような中ではありましたが、その中でうまく子どもたちとのかかわりをうまく探りながらやっており良かったと思います。

学習発表会を市民文化会館で見させていただきましたが、普段の体育館では大きな動き

をするので表現できない神楽は、会場が広がったことで見応えがありました。

これからコロナと付き合いながらとなると思いますが、うまく今年の行事などのいいところを取り入れながら、今後につなげていただければ嬉しいと感じました。

**(藤原市長)**

コロナという災いがありましたが、それを良い方に取りながら、立ち直っていければいいと思っております。

**4 報告**

**(藤原市長)**

それでは皆さんからご意見がないということであれば、4の「報告」を事務局から説明願います。

**(玉懸教育部長)**

それでは、2点、資料に沿ってご報告申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

**(藤原市長)**

皆さんからご質問があればどうぞ。

〈「なし」の声あり〉

**5 その他**

**(藤原市長)**

それでは(5)のその他でございますが皆様から何かございますか。

《「なし」の声あり》

**(藤原市長)**

それでは、教育委員の皆様から貴重なご意見を伺いましてありがとうございました。

先ほど申し上げましたが、前々からの課題が実を結んでいるというところで、これも教育長の強いリーダーシップに下に進められているところでございます。昔からの財産を守りながら、次の世代にどうつないでいくのか、子どもが少なくなっていく中で、地域をどう盛り上げていくのかという大きな課題がありますが、教育だけではなく、地域づくりの中で盛り上げていかなければならないと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

**(玉懸教育部長)**

次回は、教育大綱について決定していただくこととなりますので、2月中旬の開催を予定しております。日程が決まり次第、開催場所と併せてお知らせいたします。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。